

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年4月9日

【評価実施概要】

事業所番号	0874300973		
法人名	有限会社 ケアサービスコスモス倶楽部		
事業所名	グループホーム にれの木 桃花寮		
所在地 (電話番号)	茨城県古河市仁連 1987-15 (電話) 0280-75-1117		
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年4月9日	評価確定日	平成19年10月16日

【情報提供票より】(2007年3月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 2月 21日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	7人, 非常勤 2人, 常勤換算 8.7人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造	
	1階 建ての	1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	35,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	無 (退所時の室内補修に充当)
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1333 円		

(4) 利用者の概要(4月 9日現在)

利用者人数	9名	男性	4名	女性	5名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	5名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 82歳	最低	75歳	最高	88歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	総和中央病院 ・ 総和中央病院訪問看護 ・ 斉藤歯科医院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

敷地には、囲いが無く開放された庭があり季節の草花が豊富で季節や時間を肌で感じる事が出来る空間を提供している。木造の一階建ての建物は天井が高く玄関を入っても広々とした空間を感じる事が出来る。全体を高原のペンションのような雰囲気で作られた建物は木造で優しく暖かな雰囲気がある。廊下、居室も十分に広く家族の宿泊も可能となっている。職員はゆったりとケアの提供が出来るようロングスカートに白のエプロンで統一されたユニホームを着用しさりげなくケアを提供している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、職員の移動に関する状況や運営理念に関しての取り組みに課題が残されていた。その状況は施設の職員や管理者の取り組みにより改善されていると考える。また職員と管理者が共有し外部評価の意味を理解し取り組まれている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価の内容や意味を職員と管理者で共有し積極的に取り組まれている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	民生委員、市の職員、区長、家族など多くの出席者で会議が行われている。この取り組みは日常の地域への働きかけにより集められ常に地域に密着したホームの取り組みをうかがうことが出来た。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族への連絡や情報の提供は、日常的に行われている。家族の協力や情報の提供は積極的に聴取されている。今後は家族の本音や実情が聴取できるよう工夫されたい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域への連携は、管理者、職員とも意識が高く推進会議などのスムーズな開催が地域の密着度を現すものと感じた。今後もこの状況を維持しさらなる連携の強化が期待される。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	オーナー、管理者、職員で話し合い3つの理念を掲げ職員に無理の無いよう実践を重視した内容になっている。管理者は職員に言葉かけを行い啓発している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念のとらえ方が職員により若干の違いがある。そのためヒヤリハットや報告書などを使用したり、カンファレンスなどを開催し職員の理念の共有化に心がけ実行している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者の散歩が毎日の日課になっており、その散歩の間に職員と入居者で散歩道のゴミの収集を行うなどを行っている。また自治会などにも積極的に参加し地域主催のフリーマーケットなども入居者家族の協力を得て参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を理解し、職員と話し合い自己評価を実施し職員と管理者で共有している。職員のヒアリングからも外部評価の意味や活用など具体的な話を聞くことが出来た。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、区長、家族、市職員参加のもと推進会議を開催している。会議を開催するにあたり地域の理解を得て会議に参加していただけるよう働きかけを行った。手探りで開催だが地域の理解を十分に得ているのが理解できる。		

茨城県 グループホームにれの木桃花寮

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	小学校の体験学習の場としての提供や運営推進会議の出席などを通し市町村と連携し地域と密にかかわりを持ちケアの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭管理や利用者の暮らしぶりを家族に連絡し意見を聞けるように工夫している。また施設の特徴を生かし、家族をゲストにしたホームパーティーを開催するなど家族の意見を聴取できるよう場面を設定し聴取している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見が職員に反映できるよう場面設定を行っている。	○	家族の来所時やホームパーティーなどで気軽に家族が意見を出せるよう工夫されている。今後もその状況を維持していただきたいと感じる。さらに家族の本音や家族の言いにくい内容などに対応できるよう意見箱やアンケートなどを用い家族の意見が反映できるよう工夫することでさらに質の高いケアの提供が期待できる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の状況の把握や勤務体制などに独自の工夫があり過去1年移動や退職などがなく入居者に対して馴染みの職員の確保が出来ている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入居者の状況を考慮し日中にケアマネージャーによる内部研修や伝達講習会などを開催している。また外部講師などによる研修や学習会なども開催している。(消防職員、緊急救命講習)		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部のホームなどと交流し職員同士の意見交換や交流の場となるよう近隣施設の管理者とコミュニケーションをとり今後交流できるよう計画がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の協力などを受け、入居者の馴染みの空間の設定に工夫されている。また共有空間には、大きなソファなどを置き入居者がくつろげる場所の設定があり、食後その空間にのんびりくつろぐ入居者の姿が見られた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者の状態を把握し入居者に声掛けや趣味活動などの提供に心がけている。また活動性の低い入居者に対しては、なるべく歩行が出来るよう職員が入居者個人にさりげなく声かけを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の希望を取り入れ実現できるよう努力されている。ガーデニングや水やり、ジュース作りなど入居者の参加できるホーム独自の活動内容がある。また男性の入居者が多いことから魚釣りなどの希望もありその実現に努力されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画やアセスメントは施設内のケアマネージャーが作成している。	○	ケアプランの作成や見直しなど職員が参加し意見交換し作成されているがアセスメントや見直しの時期などがやや不明確となっている。内容やプランについての見直しが行われているので、その内容をいつ変更したのかなど具体的な記載に工夫されたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプラン、アセスメントなど記載事項は、入居者個人で把握され個人でファイリングされている。	○	入居者の現状の把握や職員からの意見を反映させた内容をさらに工夫され保管し内容の明示を希望したい。

茨城県 グループホームにれの木桃花寮

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域に密着する取り組みは、非常に濃厚で地域の住人が気軽に立ち寄れるような工夫があり、地域住民の協力を得ている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度の往診を受け、入居者の健康を把握・管理している。また、職員を交え健康診断を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約書に記載し、看取り終末期に入る入居者に関しては、医療の充実した施設や病院などに退居の支援を行っている。現段階では、終末期、看取りに関してのケアの提供は考慮していない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者に対し手の言葉かけや、職員の対応は、入居者のプライバシーや羞恥心などを十分に配慮したさりげない言葉かけが行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望を取り入れその人のペースに合った暮らしが送れるよう職員間で心がけている。入居者の希望により図書館などへ本を借りに行くなどの配慮もある。		

茨城県 グループホームにれの木桃花寮

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員が同じで場所で食事をしている。その中で職員は、入居者の食べこぼしなどさりげなく介助し入居者の尊厳を守るケアを提供している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望によりいつでも入浴できるようになっている。状況により拒否的な傾向のある入居者も居るが最低週3回の入浴が提供できるよう工夫されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理や食器洗いお茶出し、掃除や配膳などホーム内の役割が入居者に与えられ職員の見守りの中入居者自ら進んで行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩が日課になっているが入居者の希望により参加、不参加が決定されている。歩行に対しての取り組みがあるが入居者にたいしての無理強いはない。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	車の往来の多い道路に面しており、家族承諾のもと玄関や通りに面した出入口には施錠がある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	外に出るといふ心がけを日常のケアの中から入居者が理解してもらえよう配慮している。避難訓練なども入居者を交え実施している。		

茨城県 グループホームにれの木桃花寮

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者個人の栄養摂取の把握や脱衣室での体重管理など個人の健康状態の把握に努力されている。	○	食事摂取量など入居者個人で把握されており、その内容が記載され個人の健康を把握する工夫がある。今後は食事の摂取量同様に水分の摂取状況も同様に把握できるよう期待される。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間に大きなソファと暖炉があり、入居者は思い思いの場所でくつろぐことができる。トイレは各居室に設置され入居者個人のプライバシーが確保されている。湿度の調節は各居室で可能になっており、個人の好みで調節が可能になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、専用のトイレと洗面台が設置されており、家族の協力のもと馴染みの物品が設置されている。		